2024年度　下期

2025年　10月　15日

みやぎ生協　福祉活動助成金　助成活動報告書

団体名	からり	
代表者名	内田有美	
連絡先 TEL：080-5556-8280 FAX：なし		E-mail　karari@karari-miyagi.org

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	LGBTQ+への相談支援に関する連続研修
事業の目的	仙台市では、パートナーシップ制度の運用が始まったが、当会が実施している LGBTQ+への支援に関するワークショップなどでは、支援現場の方から「相談時にどのように対応をしたら良いか不安」などの声が聞かれている。さまざまなところで「LGBTQ+の基礎講座」は行われているが、実際に支援をする際の留意点や実際の支援を知る機会を得ることが難しい状況にある。一方で、LGBTQ+の方々はすでに地域の中で暮らしているものの、地域の相談機関を頼れるのか不安を持っていたり、自身の望む形の支援を受けられないなど、制度の狭間に置かれやすい状況がある。そこで、今回の相談対応の研修を通して、広く地域の関係者が相談対応について学ぶことで、LGBTQ+の方が生活課題に直面をしたときに、多職種が同じ理解と安心感を持って支援に臨むことが可能となる。また、相談者の生活課題に柔軟に対応をするための下地作りができると考え実施した。
事業の具体的内容	LGBTQ+の相談支援に関する連続研修「相談の基礎と対応の多様性を学ぶ」を2回の連続講座として実施した。1回目は「LGBTQ+相談の基礎について」と題し、木立千賀様を講師としてお招きご講演をいただいた。参加者10名（スタッフ含）と一緒に、LGBTQ+の基礎的な知識の理解と、学校や社会の中で当事者が感じる困難さ、精神的な影響、社会変化などについて学んだ。2回目は「相談の多様性について」と題し、三戸花菜子様を講師とし

	てお招きし、ご講演をいただいた。参加者13名（スタッフ含）と一緒に、障がいを抱えたダブルマイノリティの方の事例や地域での相談ケースについて学び、相談対応時に相談員や組織が工夫をすることで、状況が改善したことや創作事例によるワークショップも盛り込まれていた。全体を通じて、参加者自身も自分の知識や対応を深める講座となった。
活動の開始から完了までの流れ	3月　講師交渉 4月・5月　会場手配、講師との打ち合わせ 6月　広報開始（チラシ、SNS、サイト、新聞） 7月　連続講座1回目実施 8月　連続講座2回目実施 9月　アンケートなど取りまとめ、会計処理
活動の成果と教訓	LGBTQ+の相談対応について、地域の中で具体的に学ぶ機会が少ないこともあり、参加者の意欲がとても高かったように感じた。性の多様性への理解を促進するためには、「地域の生活者」としての LGBTQ+が困難に直面した際に、安心安全に相談ができる環境が必要である。今回の講座は、行政関係者、NPO スタッフ、LGBTQ+について知りたいという市民の方など、県内外から多様な背景を持つ方々にご参加いただけた。そのことによって、いろいろな地域や組織の中での、相談の質の向上に寄与できたのではないかと考える。参加者からも「知るという初歩の参加でしたが、とても有意義なものでした。色々な活動があり、そこに人が居て想いがある事を実感できました。」といった感想が寄せられ、性の多様性に関する相談対応について、関心と理解を広めることが出来たと感じる。一方で、関心がある人が限定的であったことから、広く市民や相談機関に関心を持ってもらえるよう、今後も啓発活動が必要だと感じた。また、基礎が分からないのに参加しても大丈夫か、という声も寄せられたので、講座などの専門性の担保と同時に基礎知識の理解・普及を並行して行う必要性があると実感した。今後はその両輪をいかに維持していけるか検討していきたい。
今後の展望など	今回の事業を通じて、LGBTQ+の相談の必要性と専門性について認識を高めることができたと感じる。仙台市でも性の多様性に関する相談が10月から始まり、宮城県内でのニーズがこれからより可視化されていくと考えられる。今回の研修でできた講師・参加者のつながりを維持し、地域内外の情報共有を行い、より質の担保された相談事業の運営を各所で実施できるよう取り組む下地ができたと考えている。また、今回の研修内容をブラッシュアップできる場を当会としても定期的に実施し、学ぶだけでなく現場で相談員が知識として生かすことのできる体制を整えていきたい。

2、助成金使途報告書

■　収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	100,000	
自己資金	30,717	
合計	130,717	

■　支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
賃貸料	会場費・付帯設備費	6,500	5,550
謝金	講師謝礼金 30,000 円×2名	60,000	60,000
旅費交通費	講師旅費・宿泊費	58,000	59,080
印刷費	チラシ、団体リーフレット印刷	4,000	4,593
消耗品費	コピー用紙、講師用水など	1,500	1,494
合計		130,000	130,717

＊用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

からり

UDトークあり

LGBTQ+の相談支援に関する連続研修

相談の基礎と対応の多様性を学ぶ



7/21 mon

8/24 sun

セクシュアリティの多様性やLGBTQ+に関して、社会課題という認識が広まっています。
一人ひとりが安心して社会生活を営むために、制度の整備などが進んでいますが、
それと並行して、一人ひとりの生活が安定したものとなるよう、相談支援の充実も
求められています。
セクシュアリティについての相談対応の基礎について、連続講座で一緒に学びませんか。

7/21(月)

LGBTQ+相談の基礎について

きだち せんが
木立 千賀 氏

スクランブルエッグ監査役
性と人権ネットワークESTO理事

8/24(日)

相談対応の多様性について

三戸 花菜子 氏

さんかく 代表、社会福祉士、
国家資格キャリアコンサルタント
いわき市男女共同参画審議会委員等

時間：14：00～16：00（両日とも）

会場：
7/21 エル・パーク仙台 セミナー室
8/24 東京エレクトロンホール宮城
604小会議室

定員：25名程度（先着順）

参加費：無料

お申込：下記2次元コード
もしくは団体webサイトから

お申込み
(Googleフォーム)

主催：からり

お問合せ E-mail：karari@karari-miyagi.org

助成団体 みやぎ生協福祉活動助成金

web

講師プロフィール

木立（きだち） 千賀（せんが） 氏

スクランブルエッグ監査役、性と人権ネットワークESTO理事

社会人1年目から62歳の今日まで福祉分野に勤務する。認知症グループホーム介護員等を経て、現在は相談支援業務に就いている。
36歳以前は自分の存在に不思議な感覚があり、生きている感覚がなかった。それが何なのか分からなかった。しかし36歳のある日、性別が違うだろう!と自分の脳ミソが叫んだ。
それだよね!と答える自分。その時から自分と同じような人に出会う旅に出ることとなった。
そんなみんなで今日に至っている。

三戸 花菜子 氏

さんかく 代表、社会福祉士、国家資格キャリアコンサルタント
いわき市男女共同参画審議会委員等

2014年から教育現場・行政・企業で多様な性に関する出張授業を行っている。
就労移行支援事業所の支援員として主に発達障害や精神疾患のある人の就職活動と職場定着のサポート、電話相談員として被災者相談ダイヤルや自殺防止ダイヤルを経験。
福島県いわき市でLGBTQ団体を設立し、LGBTQ当事者の居場所づくりや個別相談会を実施。
LGBTQユースの居場所づくりや支援も行う。

からりについて

からりは、セクシュアリティやその人のありように関わらず、一人ひとりが人として社会の中で尊重され、安心してその街で生活を送ることができる社会になることをめざして、2023年8月に宮城県で発足しました。
相談事業、地域での連携事業、居場所事業、講師派遣などを通して、安心して生活をすることができる地域づくりを行っています。

からりでは、性の多様性に関する相談をメールにてお受けしています。
こちらの2次元コードから、相談フォームへアクセスできます。
(からりサイト内のフォームへ移動します)

からり SNS

X(旧Twitter)　Instagram　Facebook

会員募集中！

からりでは、活動を支援してくださる会員を随時募集しています。
（毎年8月～翌年7月を一年度としています）

○正会員　1口2,000円/年度
（学生 1口1,000円/年度）
○賛助会員　1口1,000円/年度
（学生1口500円/年度）

1. メールで入会希望のご連絡をお送りください。こちらから振込口座をお知らせいたします。
2. 振込口座へご入金ください。（振込手数料はご負担ください）
3. 入金確認のメールをお送りいたします。

からり

CONTACT

karari@karari-miyagi.org

https://karari-miyagi.jimdofree.com/

メールニュースで情報の発信も行っています。
どなたでも登録ができますので、ご連絡ください。
メール相談もサイト内フォームからお受けしております。ご利用ください。

メール相談はこちらから
（からりサイト内のフォームへ移動します）

SNS

X（旧Twitter）　Instagram　Facebook

このリーフレットは、
「みやぎ生協福祉活動助成金」の助成を受けて作成しました。



「ここで生きていく」

そんなあたりまえが
あたりまえであることをめざして

からりについて

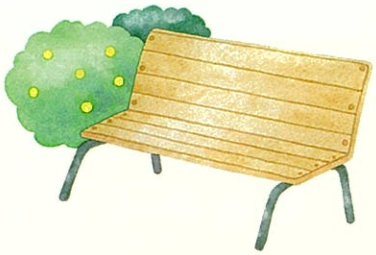
からりは、セクシュアリティやその人のありように関わらず、一人ひとりが人として社会の中で尊重され、安心してその街で生活を送ることができる社会になることをめざして、2023年8月に宮城県で発足しました。

「からり」の名前と口ゴ

生きていると大変なことがある。
でも、いつかは心がからりと晴れてほしい、という意味と、からりとそっと戸を開けてつながってほしい、という意味をこめて「からり」と名前をつけました。
からりの口ゴは、晴れた空にゆっくりと飛んでいく紙飛行機にしました。
紙飛行機には、多様性のレインボーと、亡くなった方への追悼の意味の白をそれぞれ丸で描いています。



相談事業



生活の中でのセクシュアリティに関する困りごとや不安などについて、メールで相談をお受けします。
また、セクシュアリティの多様性について支援を行っていたり、関心のある方を対象に支援に関するワークショップを定期的に行っています。支援の充実と支援者の連携構築を図っています。
セクシュアリティに関わらず、安心して生活を続けられる地域社会づくりを目指しています。

地域での連携

東北地方を中心に、セクシュアリティの多様性に関する活動をしているNPOと連携をしています。
また、宮城県内の行政やさまざま活動を行っているNPOなどとも連携をしています。
セクシュアリティと生活全般について、支え合える関係構築を大切にしています。

居場所づくり

宮城県内で、セクシュアリティに関わらず安心できる場の提供をめざしています。

講師派遣

講師やスピーカーを派遣しています。
これまで、NPO、行政、民生委員、人権擁護委員、企業、学校（教職員向け）を対象とした講座などに講師を派遣してきました。
内容などもご相談に応じますので、セクシュアリティの多様性について知りたい、という方はご相談ください。